研　究　成　果　報　告　書

2026 年 2 月 27 日

1．所属・職・氏名　等

教養学部　国際教育学科・講師・藤井翔太

2．研究課題（テーマ）名

自己啓発言説の想定する人間観とその哲学的帰結に関する研究

3．研究期間

2025 年 4 月～2026 年 3 月

4．利用した研究費の種類及び金額

若手教員研究促進交付金（50 万円）

5．研究の概要

本研究は、現代に広く流通する自己啓発言説が想定する人間観を明らかにし、それが哲学的にいかなる帰結を持つかを分析・検討することを目的とする。自己啓発書が説く個々の人生論やライフハック技法は、特定の人間観や価値観を前提としていると考えられるが、それらは必ずしも明示的に提示されるものではない。本研究では、こうした言説に含まれる暗黙の前提や哲学的モチーフを掘り起こし、それがどのような時代状況や人間理解を反映したものなのかを明らかにした上で、その哲学的・倫理学的帰結を問うことを目指す。

6．研究成果等

今年度は、自己啓発書および自己啓発言説に関する研究文献を収集・精査し、分析を進めた。分析の過程で、現代の自己啓発書においても東西の古代哲学が重要な着想源として参照されていることが明らかになった。こうした知見を踏まえ、西洋哲学史に通底する「生き方としての哲学」という潮流を現代の文脈に引き寄せて描き出す書籍（仮題『哲学のプラクティス』）の執筆を開始し、成果の一部は連載形式で公表し始めている。さらに、古代アジア哲学を「生き方としての哲学」として提示する米国の哲学者 Joel Kupperman の著書 *Classic Asian Philosophy: A Guide to the Essential Texts.* 2nd ed.（Oxford University Press, 2006）の単独訳を完成させ、併せて同書の解説論考も執筆した。これらは 2026 年 3 月に刊行予定である。

7．研究の実績（論文・発表　等）

論考

- 「哲学の殺し文句――永井均「醒めることを禁じられた夢」」、『人文的、あまりに人文

的』Vol. 4、所収、2025 年 5 月。

- 「哲学者プラトンは「レスリング選手」でもあった…哲学の知的エリート主義を問いなおす哲学プラクティスという視座」、『現代ビジネス』、2025 年 8 月。
- 「プラトンが「レスリング」を推奨したのはなぜか…哲学が格闘技でもある理由」、『現代ビジネス』、2025 年 11 月。
- 「トロント大学の哲学」、カナダ文化事典編集委員会『カナダ文化事典』丸善出版、所収、2026 年 2 月。
- 「訳者解説」、ジョエル・カッパーマン『アジア哲学入門』勁草書房、所収、2026 年 3 月（予定）。

翻訳

- （共訳）ロジャー・ガイガー『第二次世界大戦後のアメリカ高等教育：アメリカ高等教育史Ⅱ』東信堂、2025 年 4 月。
- （単独訳）ジョエル・カッパーマン『アジア哲学入門』勁草書房、2026 年 3 月（予定）。